



魚は死ぬとどうしてうくの

魚はうきぶくろをもっている

魚は、水の中でくらししていくのに合った体をしています。たいていの魚が、水中を自由に泳げるひれと、水より重い体をうかせて、軽々と動けるように、ガスのつまったうきぶくろをもっているのです。ガスかわりに水より軽い脂肪のつまったうきぶくろをもっている魚や、なかには、うきぶくろがないサメ、エイなどもいます。

うきぶくろのガスは、調節できる

うきぶくろの腹側には、ガスを少しずつ出すせき腺とよばれる毛細血管の集まりが、背中側には、ガスを吸収する卵状体とよばれる、毛細血管の集まったものが、ついています。たいていの魚は、このせき腺と、卵状体の両方を使って、うきぶくろの中のガスの量を調節したり、口から水といっしょに吸いこんだ空気を、うきぶくろに送ったりして、水底にすいめんちか、水面近くにういたりすることができます。

死んだ魚は、うきぶくろの調節ができない

魚が死ぬと、このうきぶくろのガスを調節できなくなります。そのため、おなかの側にあるうきぶくろのせいで、腹を上にして、水面にういてしまいます。

また、うきぶくろがない魚や動物が死ぬと、胃や腸などにすんでいる細菌などが、体内に残っていた食べ物などを分解してガスを発生させるため、おなかのふくらんで水にういてきます。（監修・安部 義孝）

